

主な母子保健事業

※ 生後4か月までの全戸訪問事業

年齢	事業内容			
	指導・相談	健診・検査・予防接種等	支給等	連携
小学生～ 思春期～	<p>思春期健康づくり事業 思春期保健連絡会</p>	<p>学校健診</p> <p>エイズ・性感染症対策</p>	<p>不妊症検査費・治療費の助成</p>	<p>地域でつくる子育て応援事業</p>
妊 娠	<p>不妊専門相談</p> <p>母子健康手帳交付</p> <p>母親学級 両親学級</p> <p>妊娠8ヶ月 アンケート・面談</p> <p>※ 生後4か月までの 乳児家庭全戸訪問 (のびのび赤ちゃん訪問)</p>	<p>妊婦健康診査 妊産婦歯科健診 (産後1年以内)</p> <p>産婦健康診査</p>	<p>妊娠高血圧症候群 (妊娠中毒症) 療養援護費の支給</p>	
出 産	<p>妊産婦・ 新生児訪問</p> <p>養育支援訪問事業 (専門的相談支援)</p> <p>地域支援者 による訪問</p> <p>多胎家庭 支援事業 (多胎家庭 ピアサポーター 訪問事業)</p>	<p>先天性代謝異常等の検査 (生後5～7日)</p> <p>新生児聴覚検査 (生後～27日)</p> <p>4か月児 健康診査</p> <p>7か月児 健康診査</p> <p>1歳6か月児 健康診査 歯科健康診査 フッ化物塗布</p> <p>3歳児 健康診査 視聴覚健診 歯科健康診査 フッ化物塗布</p> <p>4・5歳児 歯科健診</p>	<p>未熟児養育医療給付</p> <p>結核児童療育援護費支給</p> <p>自立支援医療 (育成医療)</p> <p>小児慢性特定疾病医療費 支給認定事業</p>	
4 か 月	<p>乳幼児保健指導 (育児学級・ 訪問指導)</p> <p>多胎家庭支援事業 (多胎家庭外出 支援事業)</p>	<p>産後ケア事業 (産後1年未満)</p> <p>ハローベビースポーツ 北九州事業 (北九州市妊娠期からの 養育支援事業)</p> <p>小児科訪問 (ベリネイタルビジット) 事業</p>	<p>予 防 接 種</p>	
7 か 月	<p>わいわい子育て相談</p> <p>乳幼児健康診査未受診者 フォローアップ事業</p>	<p>精神発達相談</p>	<p>18歳未満</p>	
1 歳			<p>18歳未満</p>	
1 歳 6 か 月			<p>18歳未満</p>	
3 歳				
4 歳				
5 歳				
6 歳				

(2) 母子医療体制の維持・強化

～しっかり見守る親子の健康～

現状・課題

●本市では、「妊娠22週」から「出生後7日未満」までの出産前後の期間、いわゆる「周産期」の医療については、「総合周産期母子医療センター」(*)を含む4つの基幹病院で、リスクの高い分娩や高度な治療が必要な新生児に対する専門的医療を提供するとともに、正常分娩を担当する病院・診療所が連携・役割分担しながら優れた医療体制を構築しています。

さらには、市立八幡病院内の「小児救急・小児総合医療センター」をはじめとする24時間365日対応の小児救急医療体制により、軽症から重症患者まで総合的な小児救急医療を提供しています。

●今後、出生数の減少に伴って、分娩を担当する病院や診療所が減少していくことが予想されます。また、働き方改革など医師の負担軽減の必要性などに伴って、現在の24時間365日対応の救急医療体制にも支障が生じる可能性もあります。

●子どもを対象とした予防接種の接種者数、接種率は高い水準で推移しています。

●子宮頸がんワクチンについては、令和4年度より積極的勧奨が再開され、令和5年度からは子宮頸がんの原因の80%～90%を防ぐことができる9価ワクチンも定期接種として選択できるようになりました。また、これまでに接種の機会を逃した方にはキャッチアップ接種として、令和7年3月31日まで接種機会を設けています。

※市立医療センター、産業医科大学病院

方向性

●引き続きこれまでの小児救急医療体制等を維持していけるよう、医療機関との連携を強めていきます。

●予防接種については、さらなる接種率の向上を目指し、接種勧奨を強化していきます。

●風しん・麻しんなど妊婦や乳幼児への影響が大きい感染症については、抗体検査や予防接種費用の助成など国の方針等も踏まえながら、市として引き続き感染拡大の防止に取り組んでいきます。

主な取り組み

①周産期医療・小児救急医療体制等の維持・確保

■周産期医療体制〔保健福祉局地域医療課〕

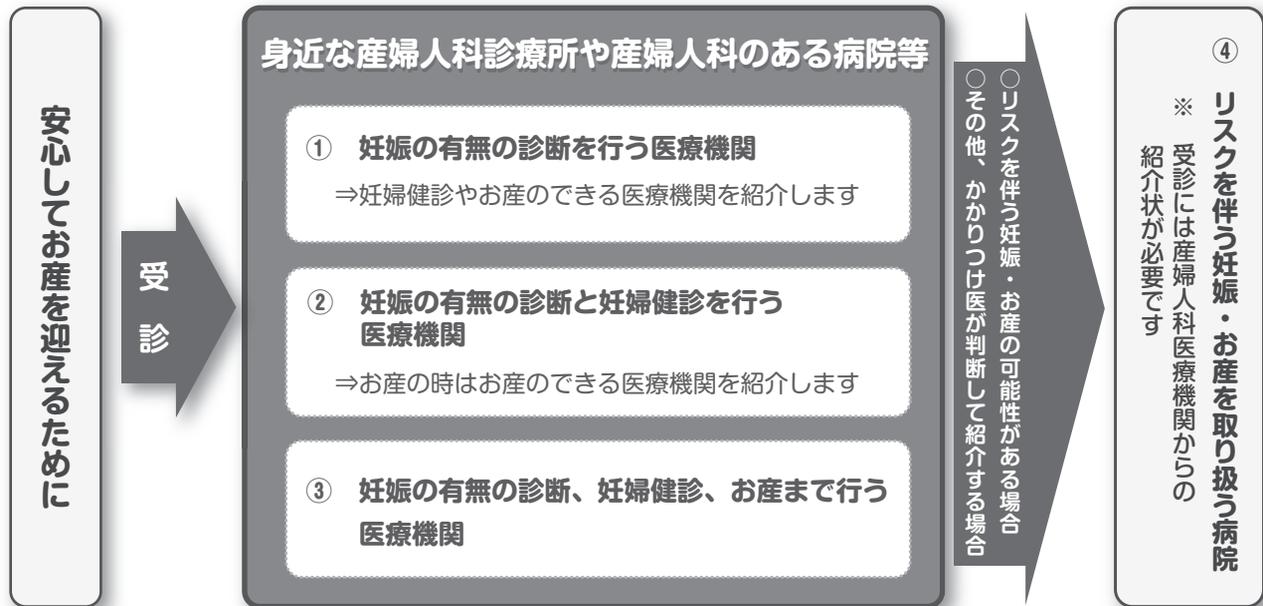
産科の医師が減少し、お産のできる病院が少なくなっています。そのため、特定の病院に急患や難産の方が集中し、病院では一般のお産の方の受け入れが難しくなっています。

そこで、北九州市では、皆さんが安心して子どもを生育できるように、各医療機関が連携して役割を分担しています。

産婦人科基幹病院（市立医療センター、国立病院機構小倉医療センター、地域医療機能推進機構九州病院、産業医科大学病院）の産婦人科では、救急や重症の人を優先的に受け入れるため、受診する際には、原則として医療機関からの紹介状が必要です。

妊娠したときは、できるだけ身近な産婦人科診療所や産婦人科専門の病院等を受診し、かかりつけ医になってもらい、定期的に妊婦健診を受けるようにしましょう。なお、リスクを伴う妊娠・お産の可能性がある場合は、かかりつけ医から適切な病院をご紹介しますこととなります。

◆周産期医療体制



◆分娩を担当する病院・診療所の数
(産婦人科など)

年度	か所数
元	23か所
2	23か所
3	23か所
4	21か所
5	18か所

■助産施設〔子育て支援課〕

母子保健上必要があるにも関わらず、経済的な理由などにより入院助産を受けることができない妊産婦に対し、入院助産に要する費用の一部を助成して、入院助産を受けることができるよう援助しています。所得等に応じた費用負担があります。

◆実施状況

年度	助成件数
元	37件
2	36件
3	33件
4	29件
5	34件

■小児救急医療体制〔保健福祉局地域医療課〕

小児救急・小児総合医療センター（市立八幡病院内）において軽症から重症患者まで総合的に救急医療の提供を行うとともに、小児救急を実施している市内医療機関相互の情報交換を図り、市民が安心して受診できる体制を構築しています。

📞 夜間休日に急病になったら…

- 1 まず、かかりつけ医に相談してください。
- 2 かかりつけ医が不在のときは、下記の電話相談窓口にご相談ください。

●**テレフォンセンター TEL 522-9999**
(夜間・休日急患センター内)

時間帯・症状に合わせた医療機関の紹介を行っています。
(24時間 365日)

●**福岡県小児救急医療電話相談 TEL #8000**※
(携帯電話からも可)

医師・看護師が、小児の急な病気やケガ等に関する電話相談を行っています。(平日は19時～翌朝7時、土曜日は12時～翌朝7時、日曜・祝日は7時～翌朝7時)

※短縮番号でつながらない場合は以下の番号をご利用ください。
092-731-4119 (福岡県内統一番号)

②子どもの感染症予防の推進

■予防接種事業 [保健福祉局健康危機管理課]

感染の恐れがある疾病に対する免疫の確保を図り、そのまん延防止と感染予防に努めるため、予防接種法に基づく、ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ混合、麻しん・風しん混合、日本脳炎、BCG、小児用肺炎球菌、水痘、B型肝炎、HPV（ヒトパピローマウイルス）、ロタウイルスの予防接種を、医療機関において無料で行っています。また、予防接種による重篤な健康被害が生じた場合、法律で定められた額の救済給付を行っています。

◆予防接種率

年度	麻しん・風しん
元	93.7%
2	96.7%
3	95.1%
4	92.5%
5	93.1%

○予防接種事業の内容

区分	対象者	接種場所	
予防接種法に基づく定期予防接種	BCG(結核)	生後0～12か月未満	市内予防接種実施医療機関
	五種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ)	生後2～90か月未満	
	四種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)	生後2～90か月未満	
	二種混合(ジフテリア・破傷風)	11～13歳未満	
	麻しん・風しん	1期：生後12～24か月未満 2期：5～7歳未満(小学校就学前の1年間に限る)	
	日本脳炎	1期：生後6～90か月未満、2期：9～13歳未満 (注)H7.4.2～H19.4.1生まれの方：20歳未満まで	
	ヒブ	生後2か月～5歳未満	
	小児用肺炎球菌	生後2か月～5歳未満	
	HPV(ヒトパピローマウイルス)	小学6年～高校1年相当の女性 (注)H9.4.2～H19.4.1生まれの女性：R7.3.31まで	
	水痘	1～3歳未満	
	B型肝炎	生後0～12か月未満	
	ロタウイルス	令和2年8月1日以降に生まれた方について、2種類のワクチンいずれかを経口接種 ロタリックス®：生後6週～24週 ロタテック®：生後6週～32週	

◆予防接種事業の実施状況

	元	2	3	4	5
BCG(結核)	6,821件	6,598件	6,255件	5,793件	5,509件
四種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)	27,643件	26,830件	25,372件	23,431件	23,777件
二種混合(ジフテリア・破傷風)	6,240件	6,398件	5,950件	5,172件	5,461件
麻しん・風しん	14,229件	13,864件	13,523件	12,753件	12,223件
日本脳炎	37,672件	35,628件	20,437件	30,333件	25,522件
ヒブ	26,568件	26,923件	25,244件	23,420件	22,149件
小児用肺炎球菌	27,132件	26,497件	25,236件	23,387件	22,178件
HPV(ヒトパピローマウイルス)	298件	1,117件	3,411件	7,602件	10,182件
水痘	13,622件	13,351件	12,241件	11,366件	11,126件
B型肝炎	19,951件	19,660件	18,841件	17,406件	16,530件
ロタウイルス	—	6,188件	15,164件	13,768件	12,837件

※ロタウイルスは令和2年10月1日から開始。

※日本脳炎は令和3年度ワクチン供給不足による勧奨控えあり。

◆保護者がより力を入れてほしい子育て支援策（抜粋）

区分	内容	
就学前児童	・経済的支援	55.8%
	・子育てと仕事を両立できる環境	46.1%
	・安心して妊娠・出産・子育てできる医療体制	36.7%
小学生	・安全・安心な公園や施設	43.8%
中学・高校生	・経済的支援	49.7%

資料：北九州市子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査（令和5年度）

注：複数回答

◆夜間・休日急患センター等の小児科受診状況

年度	夜間・休日急患センター	小児救急・小児総合医療センター (救命救急センター分を除く)	サブセンター (休日急患診療所)	合計
元	3,674人	30,402人	2,225人	36,301人
2	551人	15,769人	403人	16,723人
3	980人	20,326人	517人	21,823人
4	2,540人	23,223人	787人	26,550人
5	4,604人	29,199人	2,043人	35,846人

〔乳児死亡の動向〕

◆乳児死亡率（出産千人対）

年度	北九州市	福岡県	全国
30	1.9	2.1	1.9
元	2.6	2.3	1.9
2	2.0	1.8	1.8
3	1.9	2.0	1.7
4	1.9	1.8	1.8

資料：厚生労働省「人口動態統計」

◆新生児死亡率（出産千人対）

年度	北九州市	福岡県	全国
30	1.0	1.2	0.9
元	1.2	0.9	0.9
2	0.9	0.8	0.8
3	0.8	1.0	0.8
4	0.8	0.9	0.8

資料：厚生労働省「人口動態統計」

◆乳児及び新生児死亡率の政令指定都市比較（令和4年）

都市名	乳児死亡率	新生児死亡率
札幌市	2.4	1.3
仙台市	1.7	0.6
さいたま市	1.5	0.9
千葉市	1.9	0.9
横浜市	2.1	1.1
川崎市	1.6	0.7
相模原市	1.9	1.4
新潟市	1.1	0.2
静岡市	2.5	1.0
浜松市	2.0	0.4
名古屋市	1.8	0.9
京都市	2.3	1.1
大阪市	1.7	0.9
堺市	0.9	0.6
神戸市	1.2	0.2
岡山市	1.0	0.6
広島市	0.7	0.2
北九州市	1.9	0.8
福岡市	2.0	1.0
熊本市	3.3	1.2

資料：厚生労働省「人口動態統計」
用語の定義：乳児死亡→生後1年未満の死亡
新生児死亡→生後4週未満の死亡

〔周産期死亡の動向〕

◆周産期死亡率（出産千人対）

年度	北九州市	福岡県	全国
30	3.3	3.5	3.3
元	3.8	3.1	3.4
2	3.1	2.8	3.2
3	5.1	3.7	3.4
4	3.4	3.2	3.3

◆周産期死亡率の政令指定都市比較（令和4年）

都市名	周産期死亡率
札幌市	3.5
仙台市	2.6
さいたま市	2.6
千葉市	2.8
横浜市	3.9
川崎市	3.8
相模原市	2.9
新潟市	2.3
静岡市	3.5
浜松市	2.0
名古屋市	3.1
京都市	3.5
大阪市	4.1
堺市	3.7
神戸市	2.1
岡山市	2.7
広島市	3.6
北九州市	3.4
福岡市	3.3
熊本市	2.6

資料：厚生労働省「人口動態統計」
用語の定義：周産期死亡
→妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの